

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

低コスト造林現地検討会を開催

～福井森林管理署 黒河山国有林～



コンテナ苗とセラミック苗



苗を初めて見る参加者

【森林整備部 森林整備課】11月13日（火）、福井森林管理署管内の黒河山国有林（敦賀市）において、セラミック苗の植栽とマルチキャピティコンテナ苗（以下、「コンテナ苗」という。）の育苗について「低コスト造林現地検討会」を開催し、県・市・森林組合・種苗組合・林業事業体から69名と石川・福井・滋賀の各森林管理署から36名、合計105名が参加しました。

この低コスト造林現地検討会は、平成22年10月の兵庫森林管理署管内での開催を皮切りに、今回で5回目となります。いつでも植えられるというセラミック苗及びコンテナ苗の特性を活かし、伐採と同時に植え付けを行うことにより、地拵えや下刈回数の省力化が図られ、従来の普通苗植栽より約30%の経費削減を見込める画期的な造林方法として、技術開発と普及を図っているものです。

当日は局長挨拶の後、担当者から低コスト造林の説明を行い、つづいて赤井氏（元京都大学助教授）からセラミック苗の特性について、和歌山県山林種苗組合連合会の田端副理事長からコンテナ苗について育苗方法の説明

がありました。

その後、参加者は植栽現地へ移動し、専用の植栽器具を使った植栽体験を行いました。

植栽体験を終えた後の意見交換では、参加者からセラミック苗の植栽の簡単さに驚きの声が上がっていました。

また、「苗木の単価や入手方法を教えて欲しい。」「苗木の成長量などについて、今後も継続して追跡調査を実施して欲しい。」など、低コスト造林に対する関心は非常に高く、多くの意見を聞くことが出来ました。

近畿中国森林管理局においては、今後も様々な条件下での実証調査によるデータを蓄積し、低コスト造林の技術開発及び普及とあわせて植栽数年後の現地検討会の開催に努めていきたいと思えます。

都島中学生 職業体験学習

～箕面国有林～

【総務部 総務課】 11月8日(木)～9日(金)にかけて、大阪市立都島中学校の要請により、2年生5人を職場体験学習の一環として受け入れました。

初日の午前中は、箕面国有林内(箕面市)の天上ヶ谷



説明を受ける中学生

林道において、林道の横断溝(雨水排水用の溝)の清掃作業を体験しました。作業前に森林整備課の職員から注意事項について説明を受

け、その後全員でタッチアンドコール「ゼロ災でいこうヨシ!」を唱和し作業に取り掛かりました。

林道は、雨水により路面が洗い流され、その時に土砂

が流出し横断溝を埋めてしまいます。中学生たちは、ツルハシ・ジョレン・スコップなど初めて使う道具の使い方指導を受け、手際よく2箇所横断溝の清掃作業を行いました。



横断溝の作業体験

午後からは、隣接する箕面エキスポの森(国有林内)の「オオクワガタの棲めるもり森林」エリア内で植樹作業を体験しました。ここでは、箕面森林環境保全ふれあいセンターの職員から植樹の方法についての指導を受け、ポット苗のクヌギ10本、コナラ10本、カエデ5本の広葉樹を植えました。また、ポットにクヌギの種子を蒔き、来年の苗づくりにも挑戦しました。ポット苗は、生徒達が家に持ち帰り育ててくれる事となりました。

2日目は、森林管理局周辺でトランシット測量に挑戦しました。この測量器具は精密機器であるがゆえに取扱が難しい代物です。



トランシット測量体験

指導は計画課のベテラン指導者2名が受け持ちました。中学生たちは予め選定していた測点に測量器機を手際よく据え付け測量を行い、測量した成果を測量野帳に正確に記載していました。

その後、箕面森林環境保全ふれあいセンター職員の指導で「水源の森」ジオラマづくりに取組ました。ケヤキの樹皮や苔などの自然素材を使用し、「水源の森」をイメージし思い思いの個性的な作品を作成しました。

職場体験学習の感想として、「横断溝の清掃は腰が痛くなり疲れたが、達成感があった」「植樹作業は難しかったけど楽しかった」「測量は機械の操作が難しかったが楽しく測量ができた」「ジオラマづくりは楽しかった」などの声が聞かれました。



有識者懇談会現地説明会を実施

～奈良森林事務所管内～

【計画部 計画課】 11月7(水)～8日(木)、今年度の地域管理経営計画を策定する奈良森林管理事務所管内の大和・木津川森林計画内の国有林において、有識者懇談会現地説明会を実施しました。

地域管理経営計画等を策定する際には、森林・林業関係者のみならず、様々な分野の有識者の方々から意見を頂きそれを計画に反映させることとしています。

本説明会は、委員の方々を対象に、現地を見ながら各種事業内容等を説明し、国有林の管理経営の具体的な取り組み内容について理解頂き、有識者懇談会での意見聴取をより効果的なものとするために平成21年度から実施しています。

今年度は、奈良市の地獄谷国有林ほか7箇所の国有林等において、世界文化遺産貢献の森林、古事の森、檜皮採取対象林等の「木の文化を継承する森林づくり」、間伐



現地説明会での様子

地域ニュース

実行箇所での林産物の供給や路網整備、ふれあいの森、分収育林等の「国民参加の森林づくり」、レクリエーションの森等の国有林野の活用、保護林、シカ被害対策、治山事業等の取り組み内容等について説明を行いました。

近畿中国森林管理局においては、本説明会のほか、次期森林計画の検討方向をホームページに掲載し、多様な意見を把握するよう努めています。今後も多様な意見を効果的に把握し、計画書に反映するよう努めて参ります。

平成24年度 国有林野等所在市町村長 連絡協議会を開催

【企画調整室】11月21日（水）、近畿中国森林管理局において、平成24年度国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催し、管内14府県の国有林が所在する市町村を代表して14名の市町村長にご出席いただきました。

この協議会は、管内の市町村との連絡調整を図り、地元地域の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的として毎年度開催しているものです。

冒頭、本協議会会長の岡山県新見市長から、「国有林については、平成25年4月より一般会計に移行することとなったと聞いており、今まで以上に地域林業のリーダーとしての役割を担っていただくようお願いする。」などの挨拶を頂きました。

また、会議の中において、各市町村長から、

- ・ 補助事業について、数年で打ち切りとならないような取組が必要。
- ・ 間伐材の発電燃料としての利用や国産材利用における補助事業のあり方等について、林野庁と関係省庁が連携した取組が必要。
- ・ 近年の台風等による被害を受け、治山・治水の概念や危機管理体制の見直しなど、災害への意識レベルを上げることが必要。
- ・ 間伐のほか、皆伐と植栽も行い、多様な森林構成となるよう施策の検討が必要。
- ・ 保安林での行為制限について、森林整備の一環である行為については規制緩和が必要。

など、実情を踏まえたご意見を頂きました。

近畿中国森林管理局では、いただいたご意見を国有林野事業の運営に適切に反映させるよう努めて参ります。



会議の様子

「春日奥山古事の森」普及啓発イベント ～古都奈良のまち並みと古事の森～

【奈良森林管理事務所】10月27日（土）、春日大社感謝共生の館と春日山原始林において、「古都奈良のまち並みと古事の森」と題して「春日奥山古事の森普及啓発イベント」を開催しました。

「春日奥山古事の森」は、平成15年度に春日山原始林に隣接する地獄谷国有林（奈良市）に設定し、歴史的木造建造物の修復用資材の供給に寄与するため、関係機関やNPO等との連携・協力を図りながら、200～400年というこれまでにない超長期にわたる森林づくりの象徴的な取組として、「古事の森」づくりを展開しています。



所長による古事の森の取組説明

当日は、一般参加者や春日奥山古事の森育成協議会関係者、ボランティア団体など、約200名が参加しました。

第1部のシンポジウムでは、今年度は日本の木の文化を象徴する社寺だけではなく、日本古来の大衆の木造文化である町屋・町並みが社寺と一体となって地域の魅力を増すことに着目し、東大寺技監の今西良男氏が、「奈良の町屋と町並み」と題して基調講演が行われました。ヒノキ、マツ、クリ、曲がり材などの修復用材の入手に係る現状や苦労話が訴えかけられました。

また、パネルディスカッションでは、奈良女子大学特任教授の上野邦一氏をコーディネーターとしてお招きし、宇陀市教育委員会の森本陽子氏、今井町重要文化財高木家夫人の高木恭子氏、近畿中国森林管理局長の3名が



パネラーの話に熱心に耳を傾ける参加者

パネラーとなり、「木造建築物の良さを活かして町並み再建」をテーマに活発な討論が行われました。

各パネラーからは、古民家に住む者の立場から、保存していくための苦労話や、行政担当者の立場から、個別の住宅の修理、町並みの保存に取り組んで感じたこと、社寺の魅力は周辺の風景と一体となっこそ魅力を増し、観光資源としても奈良の風景には、木造の町屋・町並みが必要であるなど、活発な意見交換が行われました。

また、(財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長西村康氏からは、木の文化を守るためには多くの方々の理解と協力が不可欠で、今回の「古事の森」の普及啓発活動をきっかけに、さらに取り組みを進めて参りたいと締めくくりました。

第2部の「春日山原始林の森林散策」では、市民ボランティア「グリーンあすなら(奈良巨樹・古木の会)」の会員の案内で、春日山原始林の散策を行いました。



ボランティアによる巨樹・巨木の説明

春日大社感謝共生の館を出発し、春日大社本殿を参拝したあと、全長約5kmのコースを約2時間30分かけて散策し、普段あまり目にする事のないエノキやムクロジ、スギなどの大木を興味深そうに観察していました。

参加者の中には東京から遙々参加した方もおられ、「普段通行できないコースを散策することができ、大変有意義な1日でした。」



原始林内にあるスギの巨木

「古事の森の活動を初めて知りました。是非来年も参加したい。」などの感想も聞かれました。

奈良森林管理事務所では、今後も古事の森育成協議会との連携を密にし、「古事の森」の普及啓発に向けて取り組む方針です。

平成24年度 大山三の沢 植樹祭 開催

【鳥取森林管理署】11月1日(木)、大山国有林三の沢^{えんてい}にて、三の沢堰堤護岸工事が完成を迎えるにあたり、鳥取森林管理署が主催して「平成24年度 大山三の沢植樹祭」を行いました。

当日は、鳥取県整備部や環境省中四国地方環境事務所米子環境事務所の職員、江府町立江府小学校4年生の児童、OF会鳥取支部など総勢約80名が集まり、鳥取森林管理署職員指導の下、周辺の大山山系で採取し、種子から育てたブナ・ナナカマドなどの苗木300本を植えました。



参加者による植樹

参加した江府町立江府小学校4年生の西岡俊輔さんは「寒かったけど木を植えるのがとても楽しかった。参加できて良かった。」と目を輝かせていました。また同小学校4年生の下垣春琳さんは「私は自然が好きなので植えた苗木がどんどん大きくなり、緑豊かな山になって欲しい。」と感想が聞かれました。



参加者の皆様の記念写真

「錦川の水を育む森林づくり交流会」

～国有林で利水企業関係者協働による水源の森林づくり～

【山口森林管理事務所】11月17日(土)、山口県東部岩国市中心部へ注ぐ清流「錦川」^{にしきがわ}。その水源域に所在する高鉢山国有林(岩国市錦町宇佐)^{たかはち}で山口県岩国・柳井農林事務所主催(共催:山口県企業局、岩国市、山口森林管理事務所)の「錦川の水を育む森林づくり交流会」が、川下の利水企業関係者ほか総勢60名の参加により盛大に開催されました。

会場となった高鉢山国有林の当該箇所は、平成11年に市民ボランティアや利水関係者等によりコナラ、ヤマザクラなど15種の苗木が植栽された「錦川水源の森」(面積1ha)で、それ以降、関係者の熱意により定期的に森林づくり活動が実施されています。

当日は、主催者である岩国農林事務所の江藤所長より「私たちの暮らしや産業活動に欠かすことのできない良質な水は、健全な森林から生まれます。関係者協働で取り組んできた森づくり活動を通じて、水源かん養機能や地球温暖化防止機能など森林のもつ多面的機能への理解を深めて下さい」との挨拶に続き、山口県指導林業士の指導による除伐作業を行いました。

あいにくの天候で雨合羽を着用しての作業となった参加者は、植栽後十数年が経過し、見上げるほどに成長した木々の下で、指導者のアドバイスにより植栽木周囲の灌木を鋸を使って丁寧に伐り除いていました。



合羽で除伐作業

参加者からは、「錦川の清流は上流域の豊かな森林によって育まれちよることを改めて認識した」。そして、「豊かで清らかな水を守り続けていくためには、森林の手入れが重要なんですね」との感想が聞こえてきました。

水源の森にそぼ降る甘雨の中、豊かな水を育む森林づくりは短時間の作業ではありましたが、参加者は一様に満足した表情を浮かべていました。

閉会の頃には雨も上がり、来年も訪れることを皆で確認し、霽に煙る森を後にしました。



参加の皆様

※除伐・・・育成の対象となる樹木の生育を妨げる雑木等を切り払う作業。通常7年から20年程度にかけて数回行う。

おおとうさん 大塔山山頂保全検討会の開催

【和歌山森林管理署】10月26日(金)、紀南地方の最高峰「大塔山」の山頂において第四回「大塔山山頂保全



大塔山山頂

検討会」を開催しました。平成10年、本州南限のブナ林が現存する「大塔山モミ・ツガ・ブナ植物群落保護林」に接する森林の一部が誤伐されました。伐採による影響は、伐跡地からブナ林内へ吹き込む強風による土壌の乾燥化やブナの風倒・枯損・衰弱を招いたほか、伐跡地やブナ林床でのシカの食害も発生しました。このため、和歌山森林管理署では関係行政機関や地元の自然保護団体からなる第一回「大塔山山頂保全検討会」を平成19年に開催し、以降ここでの検討結果を踏まえながら、これまでに保護柵の設置や植生調査などを行ってきています。



検討会の様子

今回で第四回目となる検討会は、前回に引き続き現地で開催し、保護柵内の植生の回復状況を確認した後、天然更新補助作業の必要性の是非、シカの食害により裸地化している登山道周辺の保全対策等について検討しました。植生は全体的には順調に回復しているものの、笹覆い地や高木ブナの衰弱が一部で見られるなど、引き続き民団が連携・協働しながら注視していく必要性を確認しました。今後も検討会の開催、植生調査、巡視パトロールなど森林再生のための取組を行うこととしています。

川久保溪谷と本山寺山国有林の植物観察会 ～ふれあい推進事業イベント～

【京都大阪森林管理事務所】11月25日(日)、秋の清々しい快晴の下、大阪植物観察会主催による森林ふれあい推進事業イベント「川久保溪谷と本山寺山国有林の植物観察会」が高槻市で開催されました。

当日は、一般参加者17名・大阪植物観察会スタッフ10名・京都大阪森林管理事務所より2名、計29名の参加により「水源の森百選の川久保溪谷」⇒「本山寺山国有林のモミ・ツガ林」⇒「^{かぶさん}神峰山の紅葉とナラ枯れの現状」のルートで気持ちの良い秋晴れの森林を植物観察をしながら森林を散策しました。



黄金色のじゅうたんで一休み

途中、スタッフから人工林と雑木林の話、溪谷に多い植物と尾根筋に多い植物の説明を聞きながら、本山寺境内まで歩き昼食を取りました。その後、参加者全員によ



記念撮影

る記念撮影を行い、本山寺山国有林に移動しスタッフからのモミ・ツガ林の説明に続き流域管理調整官より「農林業における二ホンジカによる被害と森林被害の現状」についての説明と、箕面森林官より「本山寺山・楊梅山国有林の概要」について説明を行いました。

このイベントの最終説明箇所である神峰山において、「カシノナガキクイムシの被害現状と防除対策活動状況」

についての説明を行い、16時に現地解散でイベントを終了しました。

参加者からは、都会に所在する高槻市の森林にもたくさんの貴重な植物が自生していることや、植物の見分け方、ナラ枯れやマツ枯れの現状、二ホンジカによる被害の現状等について改めて学ぶとともに、「楽しく歩いて自然に親しむことができ、貴重な一日となりました。」との喜びの声が聞かれました。

今回開催されたイベントは、平成24年9月11日付けで近畿中国森林管理局長と大阪植物観察会との間で締結された「イベント実施業務委託契約」により、契約相手方である「大阪植物観察会」が企画し、本山寺山国有林外を活用した自然観察イベントです。

「公共施設等木材利用促進のための研究会」 ～提言の取りまとめ～

【広島北部森林管理署】11月14日(水)、広島北部森林管理署が主催する「公共施設等木材利用促進のための研究会」を開催しました。

当日は、研究会を構成する広島県林業課、広島県林業技術センター並びに三次市、神石高原町の林務担当課、住宅建築等に関わる担当課及びオブザーバーである広島インテリア協議会(事務局:広島市)、当署の職員合わせて15人が出席しました。



会議の様子

冒頭、署長から本研究会の取組について局広報誌「森の広場」に掲載された内容に対する国有林モニターからのメッセージを紹介後、「私たち国や地方公共団体等が公共施設に木材を利用し、木造建築の良さを国民に積極的に情報発信していくとともに、川上、川中、川下がともにタグを組んで、直面する様々な課題に取り組んでいく必要があります。本研究会は本日でひとまず幕を下ろしますが、本研究会は今ほ小さな小さな水の流れであるかも知れません。この流れがいずれ大河となって大海へ注がれる取組のきっかけとなることを期待します」と挨拶をしました。

研究会では、第1回～第3回までの「公共施設等木材利用促進のための研究会」振り返りについて、事務局である当署の担当者からスライドによる説明を行い、①市町の木材利用方針の早期策定の取組②コストを抑えるための設計上の工夫③事業スケジュールの綿密な計画と関係者との連携について意見交換を行い本研究会として、公共建築物の木造・木質化建築物の木材利用促進について次のとおり提言し最終報告としました。

—提言の内容—

【市町の木材利用方針の早期策定等に向けた一層の取組】

市町における公共建築物の木造・木質化を推進するためには市町の木材利用方針の策定がないと難しいので、林業関係・営繕関係・住宅関係各課の連携により、未策定市町の早期木材利用方針策定に向けて一層取り組むこと。

また、今後においては、木材利用方針の内容が具体的な行動となるための取組を行っていくこと。

【地域材を積極的に活用していくための情報収集と関連地域産業との連携】

①地域材を積極的に活用していくために、設計段階から調達ルート、乾燥のコスト、乾燥期間等についての情報収集及び関連地域産業（原木供給者、建材流通事業者、製材事業者、建築士事務所等）との連携を検討すること。

②原木の伐採や建築現場の見学会等を行うことにより、木造建築物を通じて地域の連携を強めることが可能となり、地域の木を活かす公共建築物の木造・木質化を目指す。

【地域材の利用促進の啓発と公共建築物における地域材利用の積極的な推進】

地域材の利用促進の啓発について、エンドユーザー等を対象として、例えば、既に供用開始されている学校施設、図書館、福祉施設等の木造・木質化事例箇所を対象に、木の良さや木材利用に対する施設利用者の感想等を、市町の広報、ホームページへの掲載、各種会議等で紹介する等工夫を凝らしPRを行うとともに、公共建築物における地域材の利用を積極的に推進すること。

環境ふくいCO2削減貢献事業

【福井森林管理署】 自然体験活動に適したあわら市の北潟国有林を「ふれあいの森」として提供し、その一環として、11月18日（日）に、北潟海辺の森づくりプロジェクト・海辺の森から地球を考えよう（福井県カーボンオフセット事業）に係わる「北潟の森植樹活動」を開催しました。

当日はあいにくの曇り空でしたが、福井市などから親

子連れを含む33名（あわらの自然を愛する会10名・福井大学6名・一般参加者12名・フォレストの会5名）が参加し、森の薫りと潮風を体いっぱい感じた一日を



親子で参加

過ごしました。

福井森林管理署より2名参加し、北潟国有林の概要ならびに役割、植樹方法などの説明を行い植樹会場へ向かいました。

植樹会場は海べりの急斜面でしたが、参加者たちは小雨や風の中を苦闘しながらも、400本（クロマツ300本・トベラ50本・アキグミ50本）を植栽しました。

午後の森林散策では、松ぼっくり拾いなどを行いました。



急な斜面での植栽作業

これは、北潟に生えている松を種から育てて、植樹活動を進めていこうというものです。今後は拾った種を育てて植樹活動を行う予定にしています。

お知らせ

もりの 森林のギャラリー（局庁舎1階）

12月17日～1月31日 まで

レクリエーションの森スキー場紹介

【近畿中国森林管理局 国有林野管理課】

近畿中国森林管理局 「国有林モニター」募集！！

林野庁近畿中国森林管理局では、国有林を開かれた「国民の森林」とするよう取り組んでおり、その一環として、国有林の事業運営等について、国民の皆さまの理解を深めて頂くとともに、ご意見やご要望をお聞きして国有林野行政に反映させるため「国有林モニター事業」を実施しているところです。

この度、平成25年度「国有林モニター」を募集いたしますので、多くの皆様からのご応募をお待ちしております。

記

1 募集人員 80名程度

2 依頼期間

平成25年4月から平成26年3月まで（1年間）

3 依頼内容

- (1) 国有林に関するアンケートへの回答
- (2) 国有林野の管理経営についてのご意見・ご要望等の提出
- (3) モニター会議へのご出席（希望者から若干名を選定）等

4 応募資格

近畿中国森林管理局が管轄する2府12県（石川県、福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）にお住まいで、森林・林業及び国有林に関心のある満16歳以上の方。

ただし、原則として次の方を除きます。

- (1) 国会及び地方議会の議員
- (2) 地方公共団体の長
- (3) 常勤の国家公務員

5 応募方法

郵便（官製ハガキ、封書）、FAX、E-mailのいずれかにおいて、必要事項を記入の上、下記の近畿中国森林管理局国有林モニター担当まで御応募ください。

〒530-0042

大阪市北区天満橋1丁目8番75号

近畿中国森林管理局企画調整室国有林モニター担当

TEL：06-6881-3407 FAX：06-6881-3415

E-mail：kc_kikaku@rinya.maff.go.jp

6 必要事項

- (1) 氏名（ふりがな）
- (2) 住所（郵便番号）
- (3) 性別
- (4) 年齢（平成25年4月1日現在）
- (5) 職業
- (6) 電話番号
- (7) メールアドレス（ございましたら）
- (8) 「国有林モニター」募集をお知りになったきっかけ（具体的に記入）
- (9) 「国有林モニター」に応募された理由（200字程度）

7 募集期限

平成25年1月25日（金）（当日必着）

8 その他

- ・結果については、平成25年3月中にお知らせいたします。
- ・選定結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。
- ・応募時ご記入いただいた内容は、国有林モニター事業に限って利用するとともに、適切な管理を行います。



ほっと一息

あっと言う間に師走の折となりました。

局の展示 gallery にもクリスマスツリーが登場し、後はサンタさんからのプレゼントを待つばかりです。



今年も一年、沢山の方にご拝読頂きありがとうございました。来年もご愛顧の程、宜しく願いいたします。よいお年を。